

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ  
黒田 禎一郎

2023年2月26日（日）

主 題：「全き愛の内を歩む人」

テキスト：第1ヨハネの手紙4章17～21節

### はじめに

・おはようございます。

・前回、私たちは「私の内には愛する方がいる」—見える化—、というメッセージを聞きました。愛は神から出ます。そして私たちの内にあふれ、第一に兄弟愛が実現し、第二にその愛を告白する信仰となって、目に「見える化」となります。

4:15 **だれでも、イエスが神の御子であると告白するなら、神はその人のうちにとどまり、その人も神のうちにとどまっています。**

・「神の愛」、そこには愛の流れがあることを学びました。

- ① 愛の使信は神から発する
- ② 証言を通しイエスが内住くださる
- ③ 信仰告白となって結実する

・神を信じ、神と共に歩む者には、このような幸いな特権が与えられています。そのような幸いを得たキリスト者は、どのような歩みをする者でしょうか。それが今日のメッセージです。私たちが覚えなければならないことが、2点あります。

### 大切なポイント

#### 1. 2つの「さばき」がある

4:17 **こうして、愛が私たちにあって全うされました。ですから、私たちはさばきの日に確信を持つことができます。この世において、私たちがキリストと同じようであるからです。**

・ここに「さばき」という言葉が出ています。「さばき」という言葉はあまり好きな言葉ではありませんが、聖書によれば二つの「さばき」があることを知っておられるでしょうか。

#### ① 永遠の行き先が決まる「さばき」

・4:17の初めに、「**愛が私たちにあって全うされました。**」とあります。

イエス・キリストの十字架と復活によって、神の愛は全うされました。今の時代は、神の愛が全うされた後の時代です。それは「**私たちもキリストと同じようである。**」という時代です。

- 神の愛が全うされた今の時代、人はイエス・キリストを信じ罪が赦され、いのちの書に名前が記されているかどうかによって、神の都に入れるか、あるいは、火の池に入れられるかが決まります。 **ヨハネ黙示録20章 20:15** **いのちの書に記されていない者はみな、火の池に投げ込まれた。**
- これは大変厳粛な「さばき」です。神は、なぜそのような厳しい方でしょうか。ここでは2点あげます。

### ① 罪の清算は必ずしなければならないから

(すべての人は神の前で罪を犯した)

- 聖書が教える罪は「的外れ」です。罪の根は「出過ぎる」ことです。被造物が、自分が誰であるかを忘れ、創造神を見下すことこそ、罪の出発点です。人間が築いたバベルの塔など、全て権力への意志の産物です。
- それらは罪の根から育った木の実で、食べるのに良く、目に美しく、自慢したくなるようなものでした。
- 共同体の中で生じるあらゆる権力の対立と葛藤を見ると、そこには神がおられないことは明らかです。罪の根は深く、それは「的外れ」で「出過ぎる」ことです。神は罪を受け入れられませんので、罪は清算されなければなりません。

### ② 神は聖であり、神の国は聖であるから

(神の本性が聖である)

- 神は聖なるお方、神以上に聖なるお方はおられません。人は近づくことさえできないほど聖なるお方です。それが神の本性です。聖書は次のように語っています。
- **ガラテヤ人への手紙6章 6:7** **思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、刈り取りもすることになります。**
- 全ての人（被造物）は、神の前で生きる責任があります

➡蒔いた種は、刈り取るという原理（忘れてはいけない）。

しかし、イエス・キリストを信じる人は幸いです。なぜなら、自分で刈り取り（清算）できないほどの負債があるにも関わらず、イエス・キリストが十字架上で、身代わりとなり罪の清算をしてくださったからです。イエスの十字架を信じる者は、イエスが流された御血によって罪は洗われ、聖くされたからです。そして神の前に聖とされたからです。

- ・もう一つの「さばき」があります。

## ② 報いを得る「さばき」

- ・イエス・キリストによって救われた人は、恵みによって、神の都に入る特権が与えられています。さらに地上での働きに従い、報いが得られると、聖書は教えています。

- ・ここで注意してください。神によって罪が赦され、神の都に入ることができても、報いを受ける人々もいますが、報いを受けない人々もいることです。

神の報いを受ける人は次のような人です。 マタイ福音書 25章

25:21 主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』

そうです。ここでのキーワードは「忠実」です。神の教えに忠実、従順であるかが問われます。

- ・同じキリスト者であっても違いがあります。天の都に入る点では同じですが、報いが異なります。ではどこに、その違いがあるのでしょうか。それは今地上で見える兄弟にどう対処しているかによって決まると、ヨハネは語っています。

4:20 神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。

- ・日々の歩みは永遠への備えなのです。この点について、著者ヨハネは後で述べています。
- ・ところで、この地上で「全き愛」の内を歩む人は、どのような歩みをするのでしょうか。 ➡ キリストと同じように生きることです。

## 2. 全き愛の内に生きる人

4:18 愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。恐れには罰が伴い、恐れる者は、愛において全きものとなっていないのです。

### 1) 全き愛の内に生きる人

- ・全き愛と恐れとは、相対立しています。なぜなら「**恐れには罰が伴い、恐れる者は、愛において全きものとなっていないのです。**」とあるからです。
- ・イエスは、マタイの福音書 25章 14節以降で天の御国についてたとえ話を語られました。要約しますと次のようです。

25:14 天の御国は、旅に出るにあたり、自分のしもべたちを呼んで財産を預ける人のようです。

25:15 彼はそれぞれその能力に応じて、一人には五タラント、一人には二タラント、もう一人には一タラントを渡して旅に出かけた。

\* 1タラント：6、000デナリ。 1デナリ：当時の労働者の1日の賃金  
すなわち、仮に1日1万円の賃金とするならば、

1タラント：6千万円

2タラント：1億2千万円

5タラント：3億円

25:16 五タラント預かった者は出て行って、それで商売をし、ほかに五タラントをもうけた。

25:17 同じように、二タラント預かった者もほかに二タラントをもうけた

25:18 一方、一タラント預かった者は出て行って地面に穴を掘り、主人の金を隠した。

- ・かなり時がたってから、主人はしもべたちと清算をするために戻ってきました。3人のしもべは、預かったタラントをどのように管理したかが問われました。5タラント、2タラント預かったしもべは、それを元にさらにその倍額もうけました。主人はこう言いました。

25:21 主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえは、わずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう。主人の喜びとともに喜んでくれ。』

- ・このタイプのしもべは、主人から預かったタラントを忠実に管理しましたので、それなりの評価を受けました。ところが、1タラント預かったしもべはどうであったでしょうか。聖書は次のように記しています。

25:24 一タラント預かっていた者も進み出て言った。『ご主人様。あなた様は蒔かなかったところから刈り取り、散らさなかつたところからかき集める、厳しい方だと分かっていました。』

25:25 それで私は怖くなり、出て行って、あなた様の一タラントを地の中に隠しておきました。ご覧ください、これがあなた様の物です。』

25:26 しかし、主人は彼に答えた。『悪い、怠け者のしもべだ。私が蒔かなかったところから刈り取り、散らさなかつたところからかき集めると分かっていたというのか。』

25:27 それなら、おまえは私の金を銀行に預けておくべきだった。そうすれば、私が帰って来たとき、私の物を利息とともに返してもらえたのに。

- ・彼は地面に穴を掘り、主人の金を隠していました。彼は任せられタラントを全く用いませんでした。
  - ・皆さん！　ここで主人を神、しもべを自分と置くならば、いかがでしょうか。神から預かったタラントをどのように管理しているのでしょうか。私たちは神からそれなりにタラントを預かっています。それをどのように用いているのでしょうか。
  - ・タラントはお金ですが、先ずそれに相応しい健康が与えられているのでしょうか（お金で買えない）。家族が与えられているのでしょうか。友人が与えられているのでしょうか。
  - ・ある方には、さらに優れた才能、能力も与えられているではありませんか。要するに、私にあるものは（所有）、すべて神からの預かり物なのです。なぜなら、やがて主人の清算の時（死）がくるからです。その時、しもべは自分が預かったタラントの清算をしなければなりません。
- ・ここで少し考えてみたいと思います。
    - 1 タラント預かったしもべの問題はどこにあったでしょうか。
      - ① 彼は主人を厳しい方と理解していた（誤ったイメージ）
      - ② 彼はタラントの用い方を知らなかった（自己責任）
  - ・主人はしもべを信頼し、タラントを預けました。しかし、この1タラントを預かったしもべは、このように少なくとも2点の問題がありました。私たちはいかがでしょうか・・・・・・？
- ・ここで注意が必要です。それは恐れです。恐れは、その対象から離れることを求めます。1タラント預かったししもべをごらんください。  
**25:25** **それで私は怖くなり、出て行って、あなた様の一タラントを地の中に隠しておきました。**
  - ・人は恐れる人の前には出たくありません。お互いの人間関係においてもそうですが、神に対してはなおさらです。

## 2) 兄弟を愛しなさい

- ・みことばは次のように勧めています。
  - 4:19** **私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。**
  - 4:20** **神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。**

### ①愛はひとつです。

- 神を愛する愛は、人への愛が具体化されていくものです。神への態度と人への態度、それは離れているものではありません。一つのつながりがあります。
- また私たちの祈りの言葉と、人への言葉。それも離れているものではありません。一つでつながりがあります。
- また教会での態度と、家庭での態度が、仮にバラバラであるならば、その人は偽りがあると言えましょう。目に見える兄弟とは、一番身近な人のことです。一番身近な兄弟を愛していないかならば、神を愛しているなどとはとても言えません。ヨハネは言いました。

4:21 神を愛する者は兄弟も愛すべきです。私たちはこの命令を神から受けています。

- 神を愛する者は兄弟を愛する人です。ヨハネは兄弟を愛することは、神の命令であると強調しました。

### ② 愛は平安 (shalom) を与えます。

- ヨハネは、イエスのことばを次のように記しました。

14:27 わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がせてはなりません。ひるんではなりません。 ヨハネ福音書

- そして

4:17 こうして、愛が私たちにあって全うされました。ですから、私たちはさばきの日に確信を持つことができます。この世において、私たちもキリストと同じようであるからです。 1 ヨハネ

- キリストと同じように➡「shalom」(平安)を持つのです  
なんといいう幸いでしょうか。

### ま と め

主 題：「全き愛の内を歩む人」

— 聖 徒 —

- 主は今朝も、私たちにお語りくださいました。それは「全き愛の内を歩む人」(聖徒)の姿です。何の勲氏もない、罪深い私たちは、神の恵みによって選ばれ、キリストの御血によって罪が洗い清められました。聖なる者とされました。

- その人（聖徒）は、今の時代イエスのように生きることです。  
4:17 こうして、愛が私たちにあって全うされました。ですから、私たちはさばきの日に確信を持つことができます。この世において、私たちもキリストと同じようであるからです。
- それは神の贈り物であります。  
最後に次のみことばを読みましょう。  
4:16 私たちは自分たちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛のうちにとどまる人は神のうちにとどまり、神もその人のうちにとどまっておられます。 1ヨハネ

\* God bless you !